

2014/09/14 第14回丹後ウルトラマラソンに参加して

奥野 孝

今年も100キロマラソンに参加しました。この大会は今年で4回目となります。元々遅かったことありますが、回を追うごとのタイムが縮まり、言い換えれば年を取るごとに早くゴール出来るというのも我ながら不思議なものです。今がピークなのかもしれませんが、また挑戦してやろうという気持ちになりますので、いい刺激になっています。

朝4時30分、あたりは真っ暗の中こうこうとライトで照らされたスタート会場で、京丹後市長の挨拶の後、応援ゲストのタレントはるな愛がスピーチ。早朝のせい、第一声がおっさんのがらがら声だったので周りは大爆笑。笑いを交えた話で場を盛り上げる姿はさすが芸人。

去年は44キロ地点の浅茂川エイドから左足に痛みを覚え、そのままゴールまで足を引きずって走った経験から、最初からキロ6分を守ることにする。

55キロ地点の弥栄エイドまで来ると徐々に疲れが出始め、これから標高差450メートルの碓高原までの上りか、とため息をつきながら水の張ったプールに足を浸けてアイシング。疲れた顔でふとエイドを見ると、濃い化粧をして周りのスタッフとは違う雰囲気を出している人物、はるな愛がおにぎりを配っている姿を発見。おにぎりとスープを直接受け取って握手をし、何か一言「テレビで応援しています」とつい心にもないことを口走ってしまった自分が情けない。

80キロを過ぎる頃には足が棒のようになり、ゆっくり歩いて楽になりたいという悪魔のささやきを払いのけて、キロ7分ながら10時間代を目指すべくとにかく走る。残り3キロでタイムは10時間42分。よしスパートをかけてキロ6分で走ったら11時間切りや、と頭では思っても体がついていくはずもなく、結局11時間3分でゴール。

今回の収穫は後半歩くようなスピードですが、エイドを除いて最後までとにかく足を動かして走り続けられたことが、大きな自信になりました。

レース後、宿で同室の山口県から参加の日浦さんに、さらなるタイムアップの練習方法を聞くと、インターバルのスピード練習も必要だといわれました。

ちなみにこの方、今回のゴールタイムは8時間40分。国内の24時間マラソンで約250キロ走りきり、24時間マラソン世界大会（こんな大会あることを初めて知った）に日本代表でオランダや台湾まで遠征してきた人でした。恐ろしや.....。